



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究者の遺した写真を用いた標本情報の収集について : ヒグマ頭骨標本を一例に
Author(s)	加藤, 克; 高谷, 文仁; 市川, 秀雄
Citation	北大植物園研究紀要, 11, 1-19
Issue Date	2011-12-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/48137
Type	departmental bulletin paper
File Information	BBG11_001.pdf



研究者の遺した写真を用いた標本情報の収集について

- ヒグマ頭骨標本を一例に -

加藤 克ⁱ・高谷 文仁ⁱ・市川 秀雄ⁱ

はじめに

筆者らは、北海道大学植物園・博物館（以下博物館と表記）所蔵標本について、過去に運用されていた標本台帳や標本ラベルを用いて標本情報の追加、修正などの検討を続けている（加藤 2004,2008、加藤ら 2009,2010）。この検討手法は、一定の成果は挙げているものの、必ずしもすべての場合において適用できるわけではない。この手法を採用することができる標本は、過去に博物館の標本として登録されたもののみであって、新規に受け入れられた標本などに対しては、採用することができないという課題がある。

大学博物館に収蔵される標本の多くは、学内において実施された研究活動の成果であり、必ずしも博物館スタッフによって収集・研究されたものとは限らない。しかも、研究活動が終了してすぐに博物館に収められ、収集者からの情報提供が行われることは今のところごくまれであり、研究室や部局に保管されていた過去の研究者の標本が移管される場合が多い。そのため、移管された標本がどのような研究に利用され、いつ、どこで、誰によって収集されたものであるか判明しない標本が多く含まれることになる。これらの標本に対して標本情報の整理・追加を行うにあたっては、これまで筆者らが取り組んできた検討手法を用いることはできず、研究者本人の管理簿や研究ノートなどを利用する必要がある。しかし、これらのノート類が残されていることも少なく、仮に残っていたとしても標本群との関係が明確になっていない場合が多い。そもそもこれらの標本やノート類はもともと博物館に収めるために収集・記載されたものではなく、研究者が自身の研究のために作成したものであるために、標本に記載されている情報や管理簿・研究ノートの記載は本人以外にその意味が把握できないという事例も多いからである。このような状況で、残された標本を次世代の研究資源として保存し、活用に供するためには、単純な記載の転写ではなく適切な調査に基づいた情報の収集・検討が必要であることは明らかである。

本稿は、大学の研究者が研究活動の中で撮影し、保管していた古写真の調査を通じて、その写真そのものの資料価値を把握するとともに、これを用いて現存する標本の情報の整理・追加を試みるものである。

検討対象の古写真群について

本稿で用いる古写真は、現在北海道大学植物園・博物館に所蔵されているものである。これらは、大きく分けて二つのグループに分類される。

一つのグループは、博物館に保管されていたガラス乾板、フィルムとプリント群であり、もう一つのグループは、2003年に北海道大学農学部動物学教室から移管された資料に含まれていたガラス乾板、フィルムとプリント群である。グループごとに、概要について紹介することとしたい。

（博物館旧蔵写真）

博物館旧蔵写真は、ガラス乾板約 2,100 点、フィルム約 1,200 点（35 ミリスリーブの場合、各コマを 1 点とする）、プリント約 2,300 点からなる。被写体は、動物（発生、生態、クマ被害ほか）、考古、民族、海外での生活などが含まれている。撮影者は、これらの写真が博物館に保存されていたことから博物館関係者と位置付けられ、被写体から八田三郎、犬飼哲夫、名取武光、芳賀良一、阿部永ら歴代の教員を中心としたスタッフによるものと考えられる。

ⁱ 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

（農学部旧蔵写真）

農学部動物学教室旧蔵写真は、犬飼哲夫教授旧蔵資料として保管されていた文献、資料、標本群に含まれていた写真群である。内訳は、ガラス乾板約 2,200 点、フィルム約 11,000 点（同前）、プリント約 5,700 点である。被写体は、犬飼の保管していた写真であることから、その研究分野である動物（発生、生態、クマ被害ほか）、民族、海外での生活などが大部分を占めている。

なお、同じ写真のプリントとネガが博物館旧蔵写真・農学部旧蔵写真それぞれに含まれていることから、犬飼の撮影した写真も博物館旧蔵写真に多数含まれていることは間違いない。

クマ頭骨写真について

本稿で取り扱う写真は、博物館旧蔵ガラス乾板に含まれるヒグマ頭骨の写真群と、農学部旧蔵ガラス乾板に含まれる 2 枚のヒグマ頭骨写真である。ガラス乾板をデジタルカメラで複写し、階調反転と露出調整をほどこしたものを図 1 から図 38 に示し、各写真に付属する情報を表 1 に示した。

表 1 に示したように、一部の乾板は元箱に保管され、「ヒグマ頭骨」という記載はあるものの、いつ、だれが、どのような目的で撮影したものであるかは明記されていない。また、一部の写真では必ずしも箱の記載と中の写真とが対応していない場合があることに留意しなければならない。今回検討する写真資料においても、元箱 3053 には「ヒグマ頭骨」という記載とともに、抹消してはあるものの「アンゴラ♀×カスター 1932.VI.28」という記載があり、この箱の中には過去に別の乾板が保管されていたことを示唆する。ガラス乾板そのものに情報が記載されている場合や、プリントの裏面に記載がある場合を除き、ガラス乾板の箱や包紙、フィルムのスリーブケース、写真が収められている封筒などの記載を鵜呑みにすることは危険であり、慎重に取り扱う必要がある。

ここでは、A グループ（図 1~27）、B グループ（図 28~33）、C グループ（図 34~36）、D グループ（図 37・38）の 4 グループに分けて検討を進める。

クマ頭骨写真の撮影目的

A グループの写真の撮影目的を把握するために、まずは写真の観察を行った。ヒグマの上顎・下顎の歯列を撮影しているこれらの乾板には、表 1 に見るように、裏面に番号の記載がある（図 39）。これらは、連番ではなく、また保存箱ごとで意図をもって保管していたようにも思われぬが、共通の記載であること、また被写体からみても撮影者が被写体を示す標本番号を記載したものと考えられる。この番号を参考にしながら、検討を進めたい。

撮影者・撮影目的を明らかにする材料は、古写真群の概要で触れた可能性のある撮影者の情報のみである。これらのクマ頭骨写真は、アイヌ民族のクマ送りに用いられた資料を示すものではなく、純粋な動物学のためのものであることから、撮影者の可能性として、動物学者でありヒグマを研究対象としていた八田三郎が犬飼哲夫に絞り込むことは許されるだろう。そこで、彼らが発表した論文、著書、雑誌記事などを博搜した結果、犬飼哲夫と武笠耕三による論文（Inukai & Mukasa 1934）にこれらの写真の一部が掲載されていることが確認された。

表 2 の「Inukai_Fig. 照合」欄に見るように、犬飼論文の 8 枚のヒグマ頭骨写真は、ここで検討している 27 枚の乾板に含まれている。また、犬飼論文ではそれぞれの写真の説明として、標本番号の記載があり、これらの番号は、対応する乾板の記載番号と合致する（表 2 「Inukai_Fig. 標本番号」欄）。犬飼論文の図版の撮影者として、犬飼と武笠の名前が記述されていることから、これらのガラス乾板は犬飼と武笠によって 1934 年あるいはそれ以前に撮影されたものであり、記載番号も彼らが利用したものであることが確認される。

些細な照合作業であるが、これにより情報の付属していなかったガラス乾板に対して、博物館資料としての資料情報（撮影時期・撮影者・撮影目的・記載番号の意味）が付与できることとなった。さらに、これらの点が判明したことで、犬飼論文の図版に掲載されていない写真も、記載番号や共通の撮影方法から、同時に撮影されたものであることが推定され、これらの乾板は別の資料的価値を持つこととなる。

Inukai & Mukasa（1934）では、図版として掲載した標本とは別に、標本番号のみでヒグマ幼体の歯列に関するデー

タを提示している標本があり、引用している標本数は合計 27 点となる。この標本番号と乾板に記載のある番号とを照合した結果、すべてが合致することが分かった（表 2「引用のみ照合」欄）。この結果から、論文では記載のみであった標本の状態を映像として把握することができるのである。資料群としてのガラス乾板の整理・検討により、犬飼らの報告内容を保証し、研究の再検討に利用しうる材料が整備されたといえる。逆に、この照合から、文献に記載されている標本に関する情報（月齢など）を利用することが可能となり、各乾板がもつ資料情報を追加することにもつながる（表 2「文献情報」欄に追加できる情報を記載した）。

さらに、これらのガラス乾板によって得られる利点がある。図 40 は、図 8 の一部を拡大したものである。ガラス乾板は多様なサイズのものがあるが、基本的に 35 ミリフィルムよりもサイズが大きく、情報量が多い。写真原版を高精細のデジタルカメラを用いて複写することで、印刷状態の悪い文献では判別しがたい被写体の詳細を把握することができることになる。

ヒグマ写真と標本

前節で検討した写真に撮影されているヒグマ頭骨標本は、写真の撮影時期が 1934 年以前であることから、撮影以前に収集された標本であると位置付けられる。Inukai & Mukasa (1934) はこれらの標本がどこに所蔵されているかを明示してはいないが、研究成果の保存および再検証には、これらの標本の現状を把握しておく必要がある。そこで、今回検討対象とした写真資料を利用しつつ、被写体となった標本について調査を行った。

犬飼が利用した標本は、博物館もしくは農学部動物学教室に所蔵されていたものか、独自に収集したものと推測されるが、独自に収集したものも後にはどちらの機関に保管されたものと考えられる。高谷ら (2010) が整理したように、農学部動物学教室に保管されていたクマ類の骨格標本は現在博物館に移管されており、当面の検討には博物館所蔵標本を対象とすることが第一歩となる。高谷らの整理した情報に基づき、検討を進めることとしたい。

2011 年 4 月段階で、博物館に所蔵されているクマ類の頭骨標本数は 281 点である。これらには、博物館の標本番号を示す記載やラベルのほかに、収集者や後の研究者によって付与された情報が多数付属している。これまでの調査（加藤・市川 2002、加藤 2004、加藤ら 2010, 2011）によって、ラベルごとに情報を整理することで、コレクションの原型を把握することができることが確認されているため、2008 年に行われた標本整理においても同様の作業を行ったところ、以下に示す結果が得られた。

図 41 はヒグマ頭骨【48841】（以下、【 】で括った数字は、博物館における標本番号である）の現状を示している。この標本には図 42 にみるラベルおよび図 43 にみる金属製のタグに「27」という番号が記載されている。標本は骨に含まれるサンプルを採集するために上顎の一部が切り取られており、形状が一部変更されているが、「27」の番号を持つ写真（図 8）に写っている標本と同一のものである。この合致は、他にも確認され、ヒグマ頭骨【48840】（図 44）は図 12 に、【48821】（図 45）は図 20 に合致し、ラベル番号が確認される標本についてはすべて合致している（表 3-1）。

これにより、ヒグマ頭骨に付属する多数のラベルのうち、図 42 および図 43 に示したものは 1934 年時点で犬飼らが利用したものであることが推定され、標本番号によって論文と合致する 10 点の標本については、研究に用いられたい標本であることが確認された。これにより、採集年次が記載されていないいくつかの標本については、1934 年以前に収集されたヒグマであることが確定する。また、頭骨の形状からヒグマであることは推定されるものの、採集地情報が付属していないために、「クマ頭骨」として管理されてきた博物館標本（高谷ら 2010）も、犬飼論文がヒグマを対象として検討を行っていることから、標本名を「ヒグマ」へと修正することも可能となる。

さらに、犬飼が論文中に引用しなかったものの、これらのラベルのいずれかが付属する標本は、現在 100 点以上確認されている。犬飼が 1934 年に撮影し、記載した標本番号の最大のものが「103」であることから、ラベルに記載されている番号が 103 以前の標本は、採集年代が不明のものであっても、1934 年以前に収集された標本であると位置づけることができるだろう。ラベル番号 104 以降のものについては、記載されている採集情報から、1935 年以降に収集された標本が多数含まれており、採集年次不明の標本の年代特定は難しいが、犬飼の手元に入ったのが

1935 年以降であること、またこのラベルが付属することで、犬飼が研究に利用するために収集していたコレクションであるという情報は付け加えることができるだろう。

表 3-1 にみるように、写真に撮影された標本 27 点のうち、ラベルによって確認できたものは 10 点のみである。照合できなかった標本は、現在どのような状況にあるのだろうか。一つの可能性としては、犬飼らが別機関の標本を利用したというもの、もう一つの可能性は、犬飼らが利用した標本ラベルが欠落しているというものである。そこで、高精細画像を利用し、博物館に所蔵されている全標本との確認作業を行うこととした。その結果を次に示す。

図 46 は博物館に保管されていたヒグマ幼体の全身骨格【32876】（北海道産、採集年次不明）の頭部写真である。これには上述したラベルは付属していないが、図 1（記載番号 2、犬飼論文の Fig.5）の標本であることがわかる。ここから、犬飼がこの標本を「2」番標本として取り扱っていたことが判明し、この標本が 1934 年以前の収集標本であること、10 か月のヒグマであることが確定される。ラベルが付属していた頭骨標本は、動物学教室に保管されていたものであるのに対し、これは古くから博物館に保管されていたものであること、また頭骨のみの標本ではなく全身骨格であることから、ラベルが付与されなかったものと考えられる。

また、図 47 はクマ頭骨【48978】の写真である。破損が著しく、照合は難しいが、図 11（犬飼論文の Fig.4）と合致するものである。この標本には、ラベルは付属するものの脂によって番号の記載がほとんど判読できない状態にあり、下一桁の残画が「3」あるいは「8」とであると判断されるのみである。しかし、写真を利用した照合によって、このラベルには「48」の記載があったこと、北海道産のヒグマであり、8 か月の幼獣であるという標本情報を追加することができる。

図 48 はクマ左下顎骨【47723】の写真である。これにはラベルが付属せず、また骨自体にも番号の記載がない。2008 年に実施した標本整理において、上顎と下顎が分散しているものについてはラベル、骨格の記載番号や歯の噛み合わせなどにより、可能な限り同一個体の標本の組み合わせるようにしている（高谷ら 2010）が、この標本は情報不足により合致させられなかったものである。しかし、これは図 5 に写っている標本の左下顎骨である。図 5 は犬飼の標本番号「13」を持つ標本の写真であるが、このラベルを持つ標本【48886】は左下顎骨が欠落している（図 49）。二つの標本を組み合わせたと、これらが同一個体の骨格であることは間違いなく、まったく情報の無かったクマ左下顎骨【47723】が採集地情報を持つヒグマ頭骨標本となる。

標本と写真との照合は必ずしも容易なものではなく、合致するものが残されている可能性はゼロではないが、現時点で写真のみによる照合結果が正しいと評価できたものは表 3-2 にみる 3 点であり、写真と照合された標本は 27 点中 12 点となる。写真によって照合した 2 点を除き、犬飼論文の図版に掲載された標本がすべて確認できないという事実は、博物館所蔵標本と劣化の著しい個体を除いて、犬飼が重要資料として別置していたのではないかと考えられる。今後、関連機関において調査を進めることとしたい。

情報のないヒグマ頭骨写真

B グループ（図 28-33）の乾板写真には、A グループで見たような標本番号の記載がない。また、八田・犬飼の著作物にも引用されておらず、基本的な情報を得ることもできないため、博物館所蔵標本との照合を行った。

図 28-30（B-1）および図 31-33（B-2）はそれぞれ 2 個体の頭骨標本を上面、下面、側面から撮影したものであり、1 から 4 の番号が写し込まれている。B-1 の大型の標本はヒグマ頭骨【48829】（日高鶴川、採集年次なし、犬飼ラベル標本番号 20）、小型の標本は、ヒグマ頭骨【48821】（石狩、1932 年採集、犬飼ラベル標本番号 86、図 20 掲載の個体）、B-2 の大型の標本はヒグマ頭骨【47738】（樺太、犬飼ラベル標本番号 105）（図 50）の形状と合致したが、小型の標本は、合致するものを見いだせなかった。

1932 年採集の個体や犬飼の標本番号 105 の個体が写されていること、また撮影スタイルが類似していることから、これらの写真は前節の犬飼の写真とほぼ同じ時期に撮影されたものであり、八田三郎の時代に撮影されたものではないと評価できる。

ここでは、写真から標本への情報の追加はできなかったものの、資料としての写真に標本情報を付与することが

できたことを一応の成果としておく。

八田三郎のヒグマ標本

C グループ(図34-36)は犬飼の撮影した写真とは様子の異なるものである。写真には情報が付属していないため、文献写真との照合を試みた。この結果、図34および35は八田三郎の著書『熊』(八田1911)に利用されている写真の原版であることが確認され、この写真が1911年以前に撮影されたものであることが把握できる。

図34に対応する八田(1911)の図には、「ひぐまの上顎および下顎の歯列を示す」とあるのみであるが、図35に対応する図には「ひぐまの頭骨 鼻の上に銃丸の射入孔あり、眼窩は銃丸にて破られ、下顎の左股は折れる、42年鎌田射殺(5歳グマ)」という記述がある。これにより、図35は1909年から11年までの間に撮影された写真であることが確定し、情報のない写真に上述の記載を追加することができる。

八田の記述にもあるように、図35に写されている頭骨は射殺時に破損しており、完全な状態である図34に写されているものとは別の個体である。それぞれについて、現存する標本との照合を試みたところ、図34に対応する標本は、ヒグマ頭骨【09910】(天塩中川村トートムオマナイ、1909年12月)(図51)と合致し、年代的にも矛盾しない。また、図35に対応する標本は、ヒグマ頭骨【11422】(石狩平岸村、1909年10月4日、鎌田氏)(図52)であり、文献の記載とも合致する。なお、図36はヒグマ頭骨【11422】の歯列を示したものであることも確認できた(図53)。この写真は、図34と背景は同じものであり、同時に撮影されたものと考えられるため、この3枚の写真は八田によって著書に掲載するために撮影されたものと評価できる。

以上の照合により、写真に対しては撮影時期、撮影目的、撮影者と被写体の情報が、標本に対しては文献引用の実績記録が付加されることとなった。

おわりに

図37・38にあげた写真には表1にみるように、「天理教師ヲ襲ヒシ熊ノ頭骨」という記述があり、高谷らの整理から、該当するヒグマ頭骨【48888】(士別、1931年11月9日、犬飼ラベル標本番号36、天理教師殺害)が確認された。この乾板は犬飼旧蔵資料に含まれているものであるが、その撮影目的は明確にならない。1935年以降、犬飼はヒグマによる被害に関する報告を数編発表しているため、人的被害をもたらしたヒグマ資料として利用する予定だったのであろうか。この場合、写真自体に標本情報が記載されているため、「士別」という採集情報と対応する標本の現存を確認するととどまったが、少なくともこの写真は1931年11月以降に犬飼によって撮影されたものであることは確実である。

近年、古写真を利用した研究や展示活動などが開催されているが(北海道大学大学院文学研究科芸術学研究室・北海道大学総合博物館2009など)、それらの多くは、撮影者が保存することを意図し、情報を適切に記載した写真、いわば成功写真のみが利用されていることが多い。これは、利用にあたって信頼できる情報がついているという利点があるためである。一方、今回の検討対象とした写真群は、ミスショットや私的な写真を含む撮影写真総体であり、これらにはのちに別の存在が利用することを想定せず偶然残された資料である。情報が適切に付属しない、ミスショットを含めた写真が膨大に残されていることは利用しづらい反面、画一的な記録写真ではないものが多く含まれていることにもなり、これらを利用することで思わぬ情報を得ることにもつながる。例えば、有名な建築物の写真は多数残されているが、その建物を適切に撮影するためのアングルは限られており、その全周や詳細な部分の写真が残されている場合は多くはない。個人的な記録写真や周囲の植物を撮影した写真に偶然それらの情報が残されている場合もあるだろう。その写真が当該建築物の一部であることを証明することは難しいかもしれないし、部分的な情報しか得られないかもしれない。しかし、皆無の状態とは情報量は比較にならないはずである。また、研究者の残したミスショットは、論文として公表された研究内容のみならず、その下支えとなった様々な活動を示すものでもあることから、研究内容の再検討の上でも有益な情報を与えてくれる可能性が高い。公表されなかった写真は、利用された写真以上に新しい情報を与えてくれるものと考えている。

また、本稿では写真や標本の情報を劇的に追加することができたケースはほとんどなかったが、文献や被写体となった標本情報から、写真の撮影年代の上限・下限を推測することはできた。写真の撮影年代の上限や下限を確定することは、個々の標本情報の追加には直接つながることは少ないが、撮影者がガラス乾板を利用していた時代、シートフィルムを利用していた時代、35 ミリフィルムを利用し始めた時期という年代区分を確定できたとすれば、それぞれの支持体に写されている標本の収集年代の範囲を見極めることができるかもしれない。2 万カットを超える写真の整理には様々な可能性があることを念頭に置きつつ、整理を進めてゆきたい。

引用・参考文献

八田三郎 . 1911 : 熊 , 富山房 , 89p

北海道大学大学院文学研究科芸術学研究室・北海道大学総合博物館（編）. 2009 : 正田豊治ガラス乾板写真展 : 知られざる北海道写真 : ある魚類学者のまなざし , 79p

Tetsuo Inukai & Kozo Mukasa . 1934 : Über den Zahnwechsel des Yezo Braunbären, *Ursus arctos yesoensis* Lyd.. , *Folia Anat. Japn*, 12(4) : 291-301

加藤克 . 2004 : 札幌農学校所属博物館のアイヌ民族資料 , 北大植物園研究紀要 , 4 : 1-54

加藤克 . 2008 : 北海道大学植物園所蔵アイヌ民族資料について - 歴史的背景を中心に -, 北大植物園研究紀要 , 8 : 35-91

加藤克 , 市川秀雄 , 高谷文仁 . 2009 : 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史（1） - 東京仮博物場から札幌農学校所属博物館初期まで -, 北大植物園研究紀要 , 9 : 29-94

加藤克 , 市川秀雄 , 高谷文仁 . 2010 : 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史（2） - 明治期の札幌農学校所属博物館 -, 北大植物園研究紀要 , 10 : 9-96

Ryuichi Masuda・Takehiro Sato・Olavi Grönwall・Masaru Kato . 2008 : Bird and mammal specimens in the Swedish Museum of Natural History originating from Hokkaido University , 北大植物園研究紀要 , 8 : 1-13

高谷文仁・市川秀雄・加藤克 . 2010 : クマ頭骨標本の受け入れについて , 北大植物園・技術報告・年次報告 , 8 : 2-10

表 1 北大植物園・博物館所蔵 ヒグマ頭骨写真乾板リスト

図	写真番号	Box 番号	Box 記載	写真記載	写真備考 (重複)	グループ
1	<60802>	3044	熊の Schädel	2		A グループ
2	<60904>	3053	ヒグマ頭骨	3		
3	<60896>	3053	ヒグマ頭骨	11		
4	<60798>	3044	熊の Schädel	12		
5	<60795>	3044	熊の Schädel	13		
6	<60901>	3053	ヒグマ頭骨	14		
7	<60892>	3053	ヒグマ頭骨	22		
8	<60792>	3044	熊の Schädel	27		
9	<60902>	3053	ヒグマ頭骨	34		
10	<60905>	3053	ヒグマ頭骨	44		
11	<60790>	3044	熊の Schädel	48		
12	<60895>	3053	ヒグマ頭骨	49		
13	<60799>	3044	熊の Schädel	60		
14	<60903>	3053	ヒグマ頭骨	61		
15	<60800>	3044	熊の Schädel	65		
16	<60796>	3044	熊の Schädel	72		
17	<60900>	3053	ヒグマ頭骨	74		
18	<60898>	3053	ヒグマ頭骨	75		
19	<60801>	3044	熊の Schädel	80		
20	<60893>	3053	ヒグマ頭骨	86		
21	<60897>	3053	ヒグマ頭骨	90		
22	<60794>	3044	熊の Schädel	97		
23	<60899>	3053	ヒグマ頭骨	98		
24	<60791>	3044	熊の Schädel	99		
25	<60797>	3044	熊の Schädel	101		
26	<60793>	3044	熊の Schädel	102		
27	<60894>	3053	ヒグマ頭骨	103		
28	<61753>	3085	熊の Schädel	1/2		B グループ
29	<61747>	3085	熊の Schädel	1/2	<61750>	
30	<61754>	3085	熊の Schädel	1/2		
31	<61752>	3085	熊の Schädel	3/4		
32	<61751>	3085	熊の Schädel	3/4		
33	<61748>	3085	熊の Schädel	3/4	<61755>	
34	<61107>	-	-	-	<50140><61607>	C グループ
35	<61604>	-	-	-	<50139>	
36	<61608>	-	-	-		
37	<50137>	-	-	「天理教師ヲ襲ヒシ熊ノ頭骨」		D グループ
38	<50138>	-	-	「天理教師ヲ襲ヒシ熊ノ頭骨」		

写真番号は、筆者らの整理に際して付与したものである。60000 台の番号は博物館旧蔵のガラス乾板、50000 台の番号は農学部旧蔵のガラス乾板であることを示す。Box 番号も写真資料整理に資して付与したものである。同じ番号をもつ写真は同じ箱、袋、ファイルに取められていたことを示す。番号のないものは単体で保存されていたものである。

写真記載欄は、乾板に書き込まれている情報である。「」で括った情報は乾板そのものではなく、包紙の記載である。

表2 Inukai 論文とガラス乾板の照合

図番号	写真番号	写真記載	Inukai Fig. 照合	Inukai Fig. 標本番号	引用のみ照合	文献情報
1	<60802>	2	Fig.5	2	-	10 か月のクマ
2	<60904>	3	-	-	3	11 か月のクマ
3	<60896>	11	-	-	11	12 か月のクマ
4	<60798>	12	-	-	12	12 か月のクマ
5	<60795>	13	-	-	13	13-17 か月のクマ
6	<60901>	14	-	-	14	13-17 か月のクマ
7	<60892>	22	-	-	22	13-17 か月のクマ
8	<60792>	27	-	-	27	13-17 か月のクマ
9	<60902>	34	-	-	34	13-17 か月のクマ
10	<60905>	44	-	-	44	11 か月のクマ
11	<60790>	48	Fig.4	48	-	8 か月のクマ
12	<60895>	49	-	-	49	12 か月のクマ
13	<60799>	60	Fig.1	60	-	5 か月のクマ
14	<60903>	61	-	-	61	12 か月のクマ
15	<60800>	65	Fig.8	65	-	15 か月のクマ
16	<60796>	72	-	-	72	13-17 か月のクマ
17	<60900>	74	Fig.2	74	-	6 か月のクマ
18	<60898>	75	-	-	75	8 か月のクマ
19	<60801>	80	Fig.3	80	-	7 か月のクマ
20	<60893>	86	-	-	86	13-17 か月のクマ
21	<60897>	90	-	-	90	11 か月のクマ
22	<60794>	97	-	-	97	10 か月のクマ
23	<60899>	98	Fig.6	98	-	11 か月のクマ
24	<60791>	99	Fig.7	99	-	12 か月のクマ
25	<60797>	101	-	-	101	12 か月のクマ
26	<60793>	102	-	-	102	13-17 か月のクマ
27	<60894>	103	-	-	103	13-17 か月のクマ

「Inukai Fig. 照合」欄は、Inukai & Mukasa(1934) の Fig. に対応する写真について、当該 Fig. の名称を記載している

「Inukai Fig. 標本番号」欄は、Inukai & Mukasa(1934) の Fig. に示されている標本番号を示す

「引用のみ照合」欄は、Inukai & Mukasa(1934) で図として示されなかったものの引用されている標本の番号を示す

「文献情報」欄は、各標本について Inukai & Mukasa(1934) が示した情報

表 3-1. ラベルにより合致する標本が確認されたもの

			博物館所蔵標本情報							追加される標本情報			
図	写真番号	写真 記載	標本番号	標本 ラベル	標本 金属タグ	標本名	備考	採集地	採集日	文献との対照	年次	名称	採集地
3	<60896>	11	【48936】	11	11	クマ	-	-	-	12 か月のクマ	1934 年以前	ヒグマ	
4	<60798>	12	【48945】	12	-	クマ	-	-	-	12 か月のクマ	1934 年以前	ヒグマ	
5	<60795>	13	【48886】	13	13	ヒグマ	-	層雲峡	-	13-17 か月のクマ	1934 年以前		
6	<60901>	14	【48952】	14	14	クマ	-	-	-	13-17 か月のクマ	1934 年以前	ヒグマ	
8	<60792>	27	【48846】	27	27	ヒグマ	-	十勝国池田町	1931.11.	13-17 か月のクマ			
9	<60902>	34	【48981】	34	34	クマ	-	-	-	13-17 か月のクマ	1934 年以前	ヒグマ	
12	<60895>	49	【48840】	49	49	ヒグマ	-	十勝国池田町	-	12 か月のクマ	1934 年以前		
14	<60903>	61	【47724】	61	-	クマ	左下顎のみ	-	-	12 か月のクマ	1934 年以前	ヒグマ	
16	<60796>	72	【48841】	72	72	ヒグマ	-	十勝国池田町	1932.01.12	13-17 か月のクマ			
20	<60893>	86	【48821】	86	86	ヒグマ	-	石狩国	1932.02.26	13-17 か月のクマ			

表 3-2. 写真照合により合致する標本が確認されたもの

			博物館所蔵標本情報							追加される標本情報			
図	写真番号	写真記載	標本番号	標本ラベル	標本金属タグ	標本名	備考	採集地	採集日	文献との対照	年次	名称	採集地
1	<60802>	2	【32876】	-	-	ヒグマ		北海道	-	10 か月のクマ	1934 年以前		
5	<60795>	13	左下顎 【47723】	-	-	クマ		-	-	13-17 か月のクマ	1934 年以前	ヒグマ	層雲峡
11	<60790>	48	【48978】	ヨメズ	-	クマ		-	-	8 か月のクマ	1934 年以前	ヒグマ	

表 3-3. 合致する標本が確認できなかったもの

			博物館所蔵標本情報							追加される標本情報			
図	写真番号	写真 記載	標本番号	標本 ラベル	標本 金属タグ	標本名	備考	採集地	採集日	文献との対照	年次	名称	採集地
2	<60904>	3	-	-	-	-		-	-	11 か月のクマ	1934 年以前		
7	<60892>	22	-	-	-	-		-	-	13-17 か月のクマ	1934 年以前		
10	<60905>	44	-	-	-	-		-	-	11 か月のクマ	1934 年以前		
13	<60799>	60	-	-	-	-		-	-	5 か月のクマ	1934 年以前		
15	<60800>	65	-	-	-	-		-	-	15 か月のクマ	1934 年以前		
17	<60900>	74	-	-	-	-		-	-	6 か月のクマ	1934 年以前		
18	<60898>	75	-	-	-	-		-	-	8 か月のクマ	1934 年以前		
19	<60801>	80	-	-	-	-		-	-	7 か月のクマ	1934 年以前		
21	<60897>	90	-	-	-	-		-	-	11 か月のクマ	1934 年以前		
22	<60794>	97	-	-	-	-		-	-	10 か月のクマ	1934 年以前		
23	<60899>	98	-	-	-	-		-	-	11 か月のクマ	1934 年以前		
24	<60791>	99	-	-	-	-		-	-	12 か月のクマ	1934 年以前		
25	<60797>	101	-	-	-	-		-	-	12 か月のクマ	1934 年以前		
26	<60793>	102	-	-	-	-		-	-	13-17 か月のクマ	1934 年以前		
27	<60894>	103	-	-	-	-		-	-	13-17 か月のクマ	1934 年以前		



図 1. 「2」 写真番号 <60802>



図 2. 「3」 写真番号 <60904>



図 3. 「11」 写真番号 <60896>



図 4. 「12」 写真番号 <60798>



図 5. 「13」 写真番号 <60795>



図 6. 「14」 写真番号 <60901>



図 7. 「22」 写真番号 <60892>

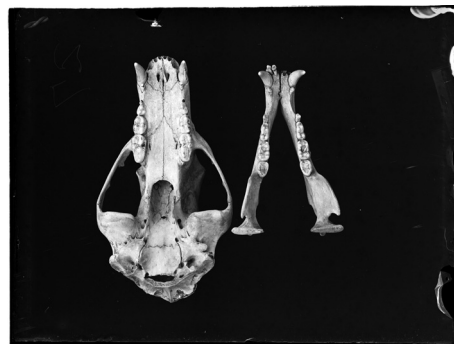


図 8. 「27」 写真番号 <60792>

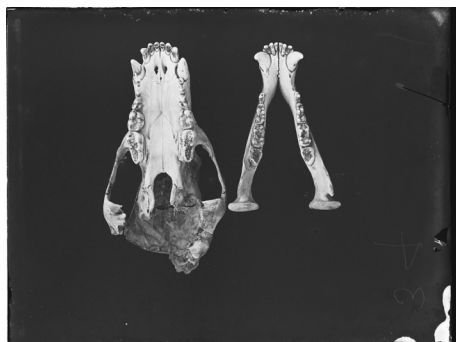


図 9. 「34」写真番号 <60902>

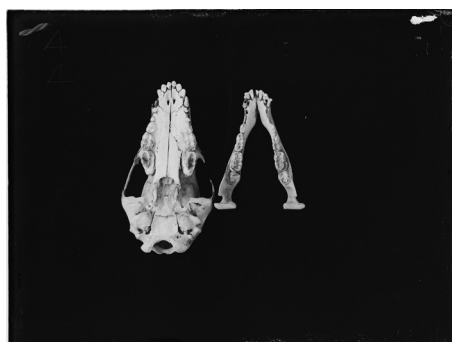


図 10. 「44」写真番号 <60905>



図 11. 「48」写真番号 <60790>



図 12. 「49」写真番号 <60895>



図 13. 「60」写真番号 <60799>



図 14. 「61」写真番号 <60903>

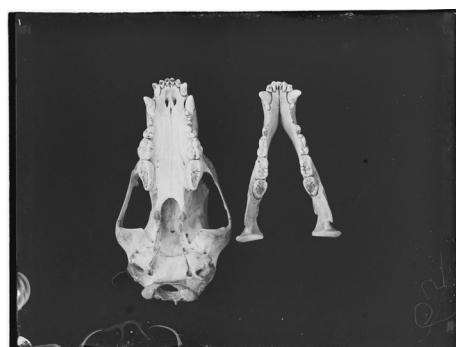


図 15. 「65」写真番号 <60800>



図 16. 「72」写真番号 <60796>

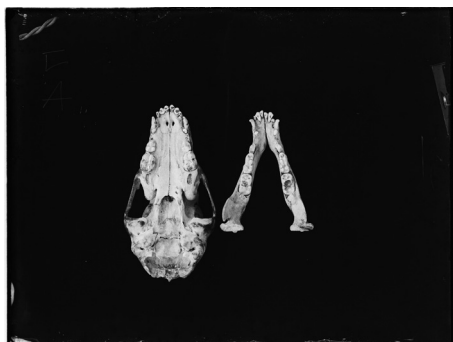


図 17. 「74」 写真番号 <60900>



図 18. 「75」 写真番号 <60898>



図 19. 「80」 写真番号 <60801>



図 20. 「86」 写真番号 <60893>



図 21. 「90」 写真番号 <60897>

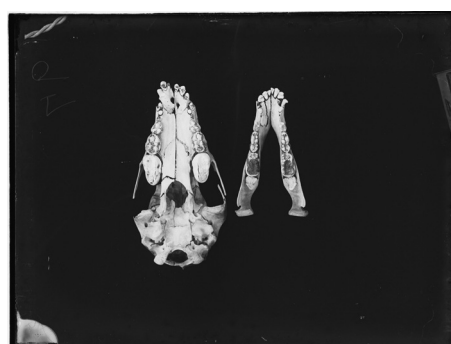


図 22. 「97」 写真番号 <60794>



図 23. 「98」 写真番号 <60899>



図 24. 「99」 写真番号 <60791>

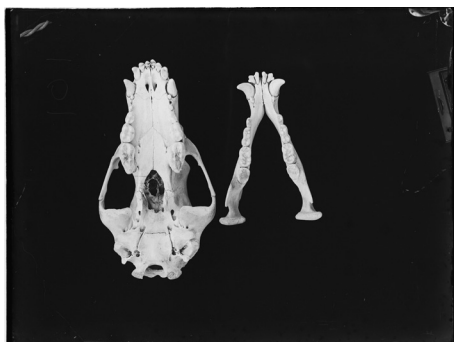


图 25. 「101」 写真番号 <60797>



图 26. 「102」 写真番号 <60793>



图 27. 「103」 写真番号 <60894>

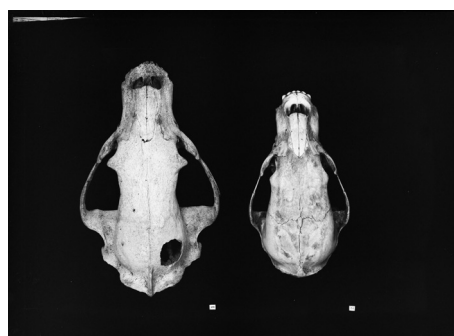


图 28. 写真番号 <61753>



图 29. 写真番号 <61747>

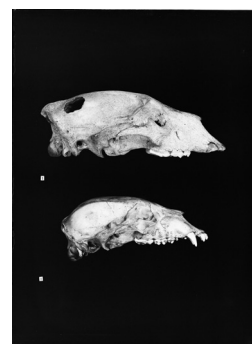


图 30. 写真番号 <61754>

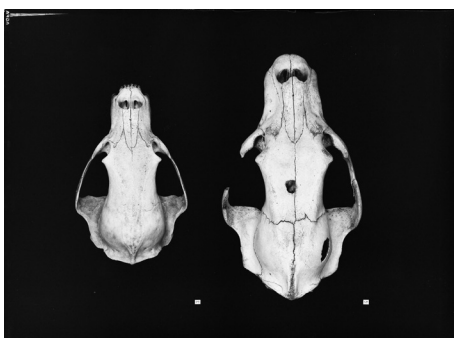


图 31. 写真番号 <61752>

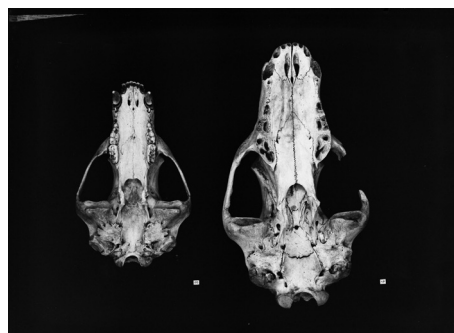


图 32. 写真番号 <61751>

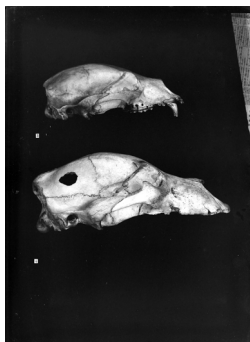


図 33. 写真番号 <61748>

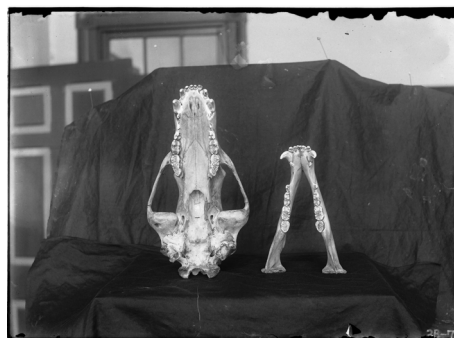


図 34. 写真番号 <61107>



図 35. 写真番号 <61604>

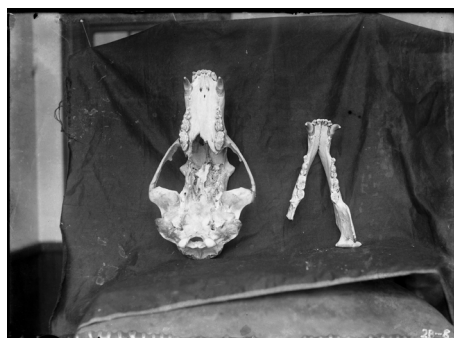


図 36. 写真番号 <61608>



図 37. 写真番号 <50137>

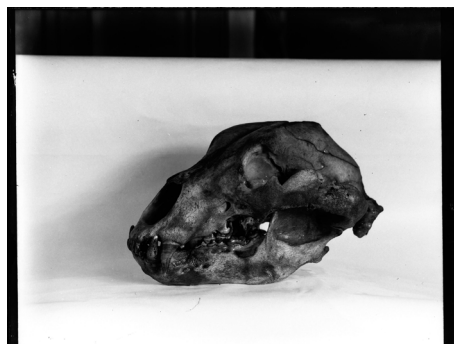


図 38. 写真番号 <50138>



図 39. 図 8 の写真を階調反転させることなく撮影したものの部分拡大：「27」

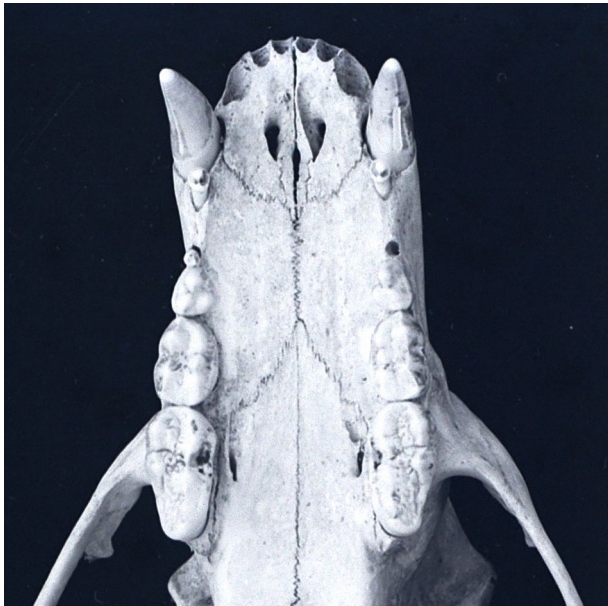


図 40. 図 8 上顎部分拡大

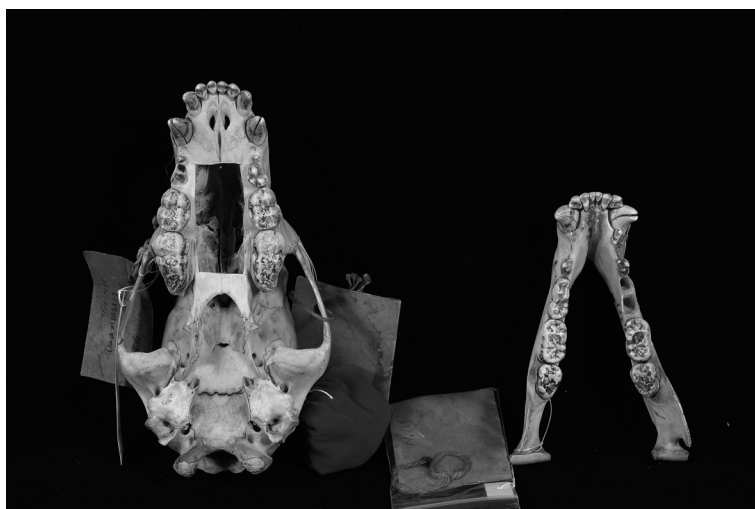


図 41. 【48841】現状



図 42. 【48841】付属のラベル「27」

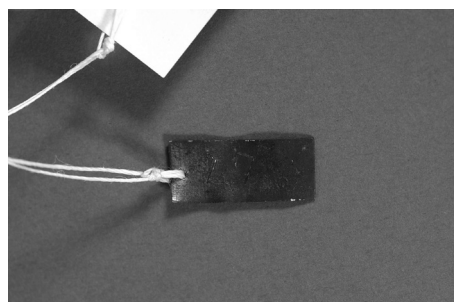


図 43. 【48841】付属の金属タグ「27」

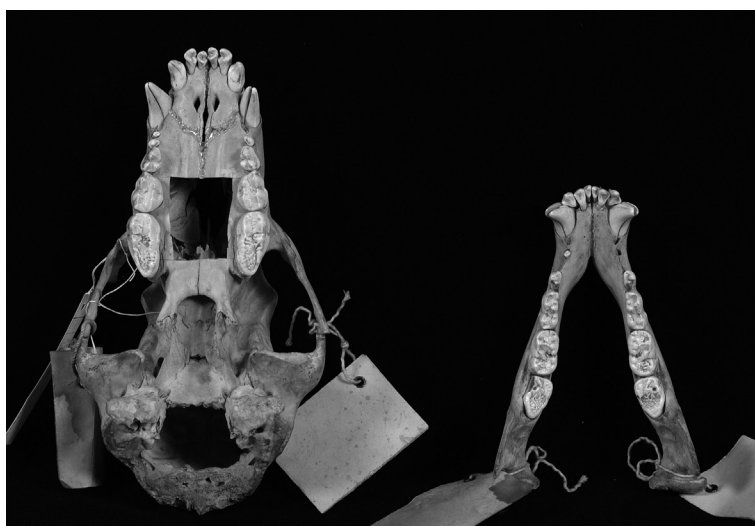


図 44. 【48840】現状



图 45. 【48821】 現状

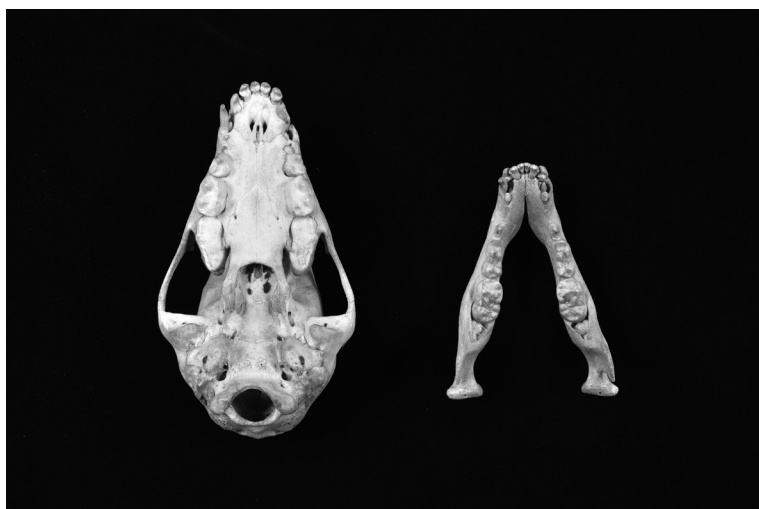


图 46. 【32876】 現状

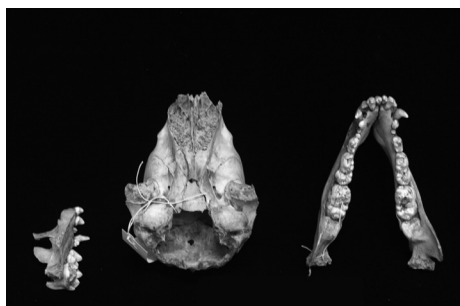


图 47. 【48978】 現状

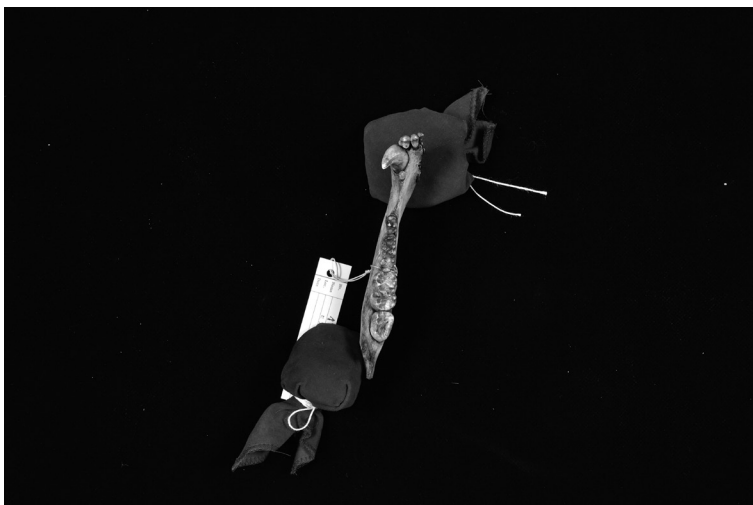


図 48. 【47723】 現状

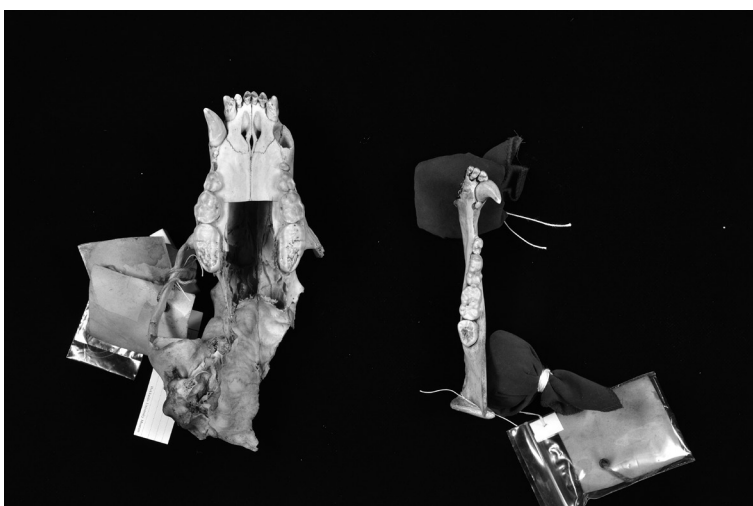


図 49. 【48886】 現状



図 50. 【47738】 現状

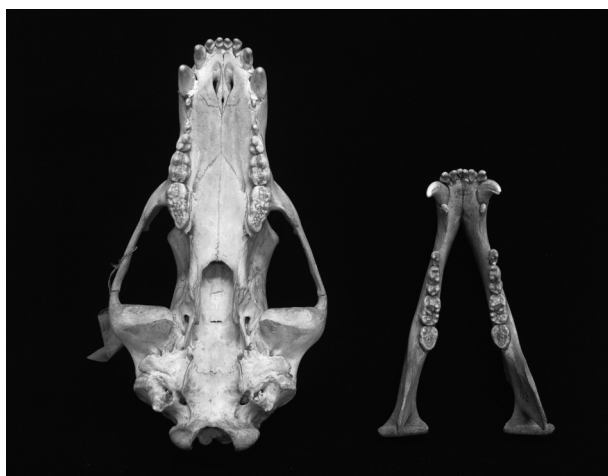


图 51. 【9910】 現状



图 52. 【11422】 現状



图 53. 【11422】 現状